

令和5年度～令和9年度

阿智村第6次総合計画（後期基本計画）



長野県阿智村

目次

第1章 序論	6
第1節 総合計画の策定にあたって	6
1 後期基本計画の目的	6
2 計画の構成と期間.....	7
第2章 阿智村の概要	8
第1節 地勢.....	8
第2節 人口の動向.....	9
第3節 将来人口.....	11
第4節 産業.....	12
1 就業人口.....	12
2 第1次産業（農業、林業、漁業など）	12
3 第2次産業（鉱業、建設業、製造業など）	13
4 第3次産業（卸売・小売業、飲食業、サービス業など）	13
第5節 財政.....	14
第6節 SDGs 達成に向けた取組について	15
第3章 基本構想	18
基本構想.....	18
基本目標.....	20
第4章 後期基本計画（令和5年度～令和9年度）	23
1 暮らし・いきがい・協働.....	23
1-1 移住定住促進.....	24
1-2 地域力・集落維持.....	27
1-3 住民主体の協働の村	31

1-4 全村博物館構想	34
1-5 情報の地域発信	37
1-6 健全で持続可能な行財政運営	40
2 教育・文化・地域愛	43
2-1 地域で育む子育て支援	44
2-2-1 明日を生きる力を育む学校教育（学校教育）	48
2-2-2 明日を生きる力を育む学校教育（阿智高校の存続と発展）	52
2-3 子どもが健やかに育つ保育園	54
2-4 社会教育の充実	57
2-5 スポーツで育む健康、交流	59
2-6 文化活動と地域文化の振興	61
3 医療・福祉・健康	63
3-1 医療体制の充実	64
3-2-1 地域包括ケア・互いに認め合い、支え合える地域づくり（地域福祉）	66
3-2-2 地域包括ケア・互いに認め合い、支え合える地域づくり（高齢者福祉） ..	69
3-3 障がい者の自立支援	74
3-4 あち健康プラン21の推進	77
4 産業振興・雇用創出	81
4-1 観光を基軸とした産業振興	82
4-2-1 阿智の特色を生かした農業振興（農業の振興）	86
4-2-2 阿智の特色を生かした農業振興（有機活用農業の推進）	89
4-3 里山の風景を残す林業振興	92
4-4 地域に根差した商工振興	95
4-5 まちづくり計画	99

5 環境・防災・安心	101
5-1 美しい景観の保全と創出	102
5-2-1 水資源の確保・保全（上水道）	104
5-2-2 水資源の確保・保全（下水道）	106
5-3 自然エネルギーの創出	108
5-4-1 安心して暮らせるしくみ（生活基盤の整備）	110
5-4-2 安心して暮らせるしくみ（防災・交通安全）	112
5-5 充実した公共交通	115
5-6 リニア中央新幹線対応	118

第1章 序 論

第1節 総合計画の策定にあたって

1 後期基本計画の目的

阿智村第6次総合計画は、「暮らす、生きる。阿智家族（住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり）」を基本理念として、平成30年3月に策定し住民主体の村政を継続・発展させるために取り組んできました。

しかし、この5年間を振り返ると、令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症は、令和2年に入ってから世界中に感染が拡大し、令和4年4月までに感染者は世界全体で累計5億人を超え、世界的流行（パンデミック）をもたらし、国内においても、令和4年7月末の時点で累計約12万6千人を超える感染者が確認されており、新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの日常は大きく変化してしまいました。

また、阿智村の人口は、社会保障・人口問題研究所の推計（平成30年3月）によると、令和27年には平成27年の人口（6,538人）の58%（3,800人）まで減少することが見込まれています。この推計に基づき令和2年3月に「人口ビジョン（令和2年度を初年度とする第2期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の見直しを行い、新たに将来人口目標を設定しました。

後期基本計画は、令和5年度を初年度とする5ヶ年計画です。激しく動いている、国内外の5年後の姿を予測することは困難なことです。これらの変化や状況に対応していくため、「暮らす、生きる。阿智家族（住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり）」の実現のため、前期基本計画の見直しを行い策定いたします。

2 計画の構成と期間

阿智村第6次総合計画は、平成30年度から令和9年度までの10年間の計画です。

総合計画の内容は、村の将来目標を明らかにした「基本構想」と、これを実現するために行う施策を示す「基本計画」から構成しています。

(1) 基本構想

本村の特色や課題、社会情勢の変化などを踏まえ、中長期的な視点で村が目指すべき将来像を示し、それを実現するための施策の展開方向や施策の大綱などを示すものです。

基本構想の計画期間は10年間です。

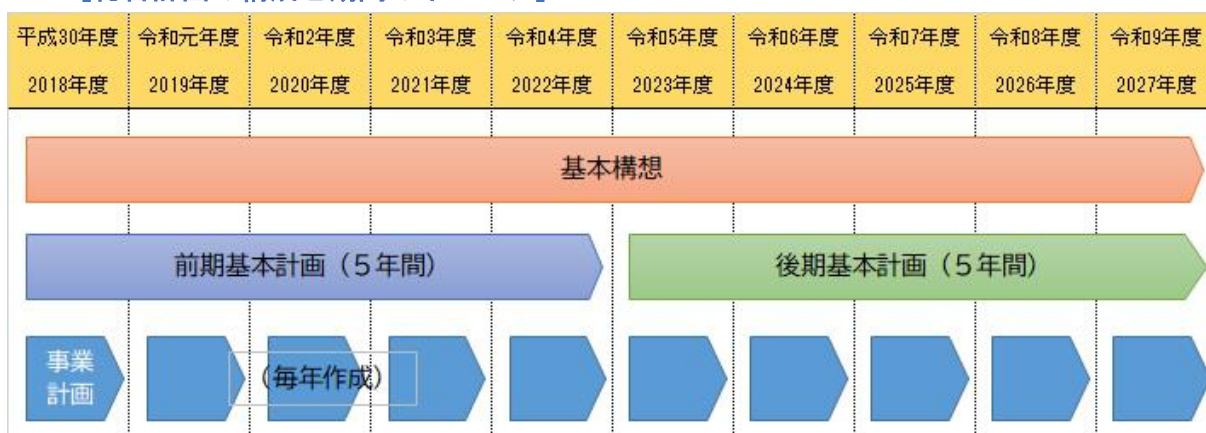
(2) 基本計画

基本計画は、基本構想を実現するため、施策の基本方針や主要な施策を示すものです。計画期間は、本村を取り巻く社会情勢に応じて見直すため、前期基本計画（平成30年度から令和4年度）と後期基本計画（令和5年度から令和9年度）で構成し、今回の基本計画は後期計画となり目標年次を令和9年度とします。

(3) 事業計画

事業計画は、基本計画を着実に実施するため、事業内容や財源などを具体的に示すものです。前年度の検証・評価を行いながら、目標や効果を含めて毎年作成します。

【総合計画の構成と期間のイメージ】



第2章 阿智村の概要

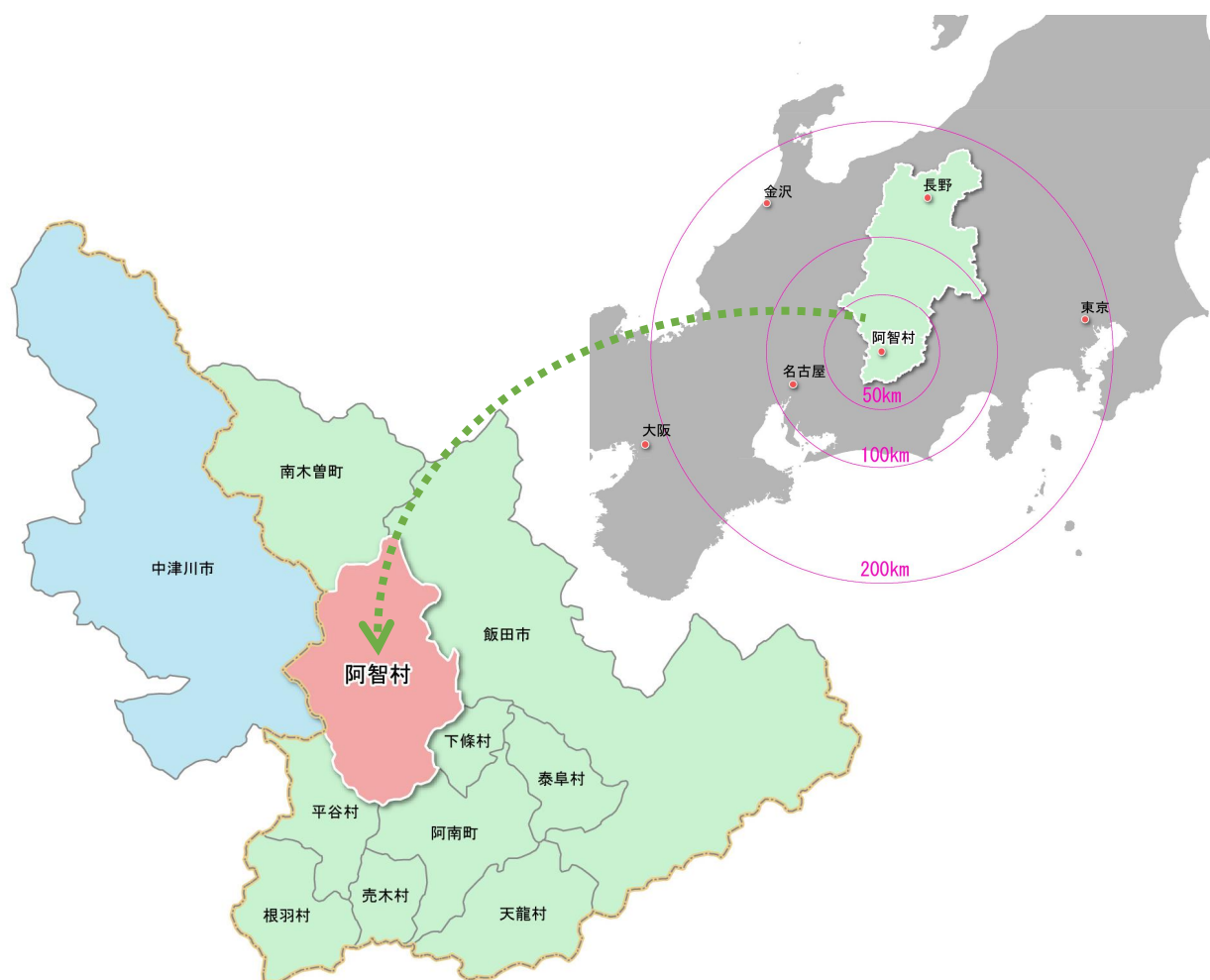
第1節 地 勢

阿智村は、長野県の南端、下伊那郡の西部に位置し、北は木曾郡南木曾町、東は飯田市、下條村と阿南町、南は平谷村に接し、西は恵那山を境として岐阜県中津川市に接しています。昭和31年9月、会地村、伍和村、智里村の3カ村が合併、さらに平成18年1月に浪合村、平成21年3月に清内路村が合併して現在の阿智村となっています。

村の総面積は、214.43km²、標高は410mから恵那山山頂2,191mに及び、その中に56の集落が点在しています。

気候は太平洋側気候に属していますが、標高の高い浪合地区や清内路地区は高冷地型の気候です。(役場(振興室)所在地の標高は、阿智村役場557m、浪合振興室955m、清内路振興室763m)

阿智村は温暖な南信州に位置しており、一年を通じて比較的温暖ですが、標高500mから1,000mの間に点在している集落ごとに違いもみられます。高原地帯の浪合地区や清内路地区は、夏は冷涼で、冬は気温が低いのが特徴です。



第2節 人口の動向

総人口

本村の人口は、平成 27 年国勢調査で 6,538 人となっています。昭和 50 年から平成 12 年までの 25 年間では、旧清内路村・浪合村を含む阿智村の人口は 7,800 人前後で推移し、ほぼ一定でした。しかしながら、平成 12 年以降は人口減少が進み、今後もその傾向が続く見通しとなっています。長野県全体においても平成 12 年をピークに人口が減少へと転じています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 27 年には 3,800 人となり、平成 27 年人口の 58% まで減少するものと見込まれています。

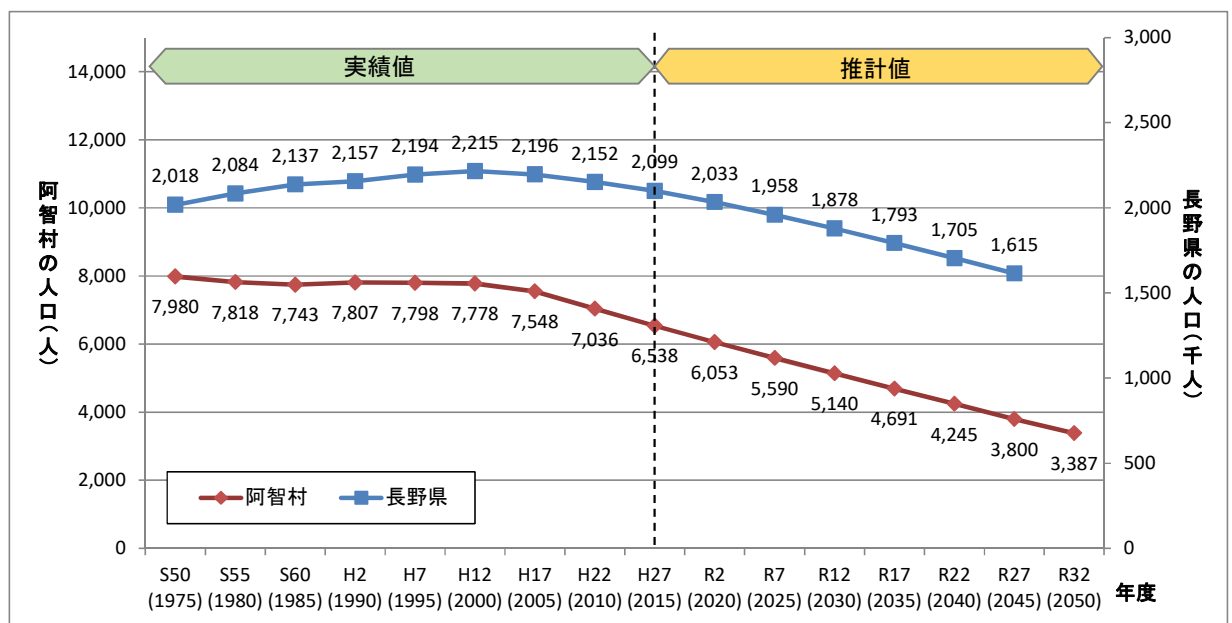


図 阿智村と長野県の人口推移と見通し

出典：(実績値) 国勢調査、(推計値) 社会保障・人口問題研究所 (平成 30 年 3 月推計)

年齢3段階別人口

年齢3階層別人口をみると、年少人口、生産年齢人口は減少傾向であり、今後もその傾向は続くものと想定されます。また老年人口は、令和 2 年までは増加しますが、その後は減少に転じるものと想定されます。

年齢3階層別の人口割合では、令和 22 年には、老年人口の割合が生産年齢人口の割合を上回り、46.7% まで上昇するものと推計されています。

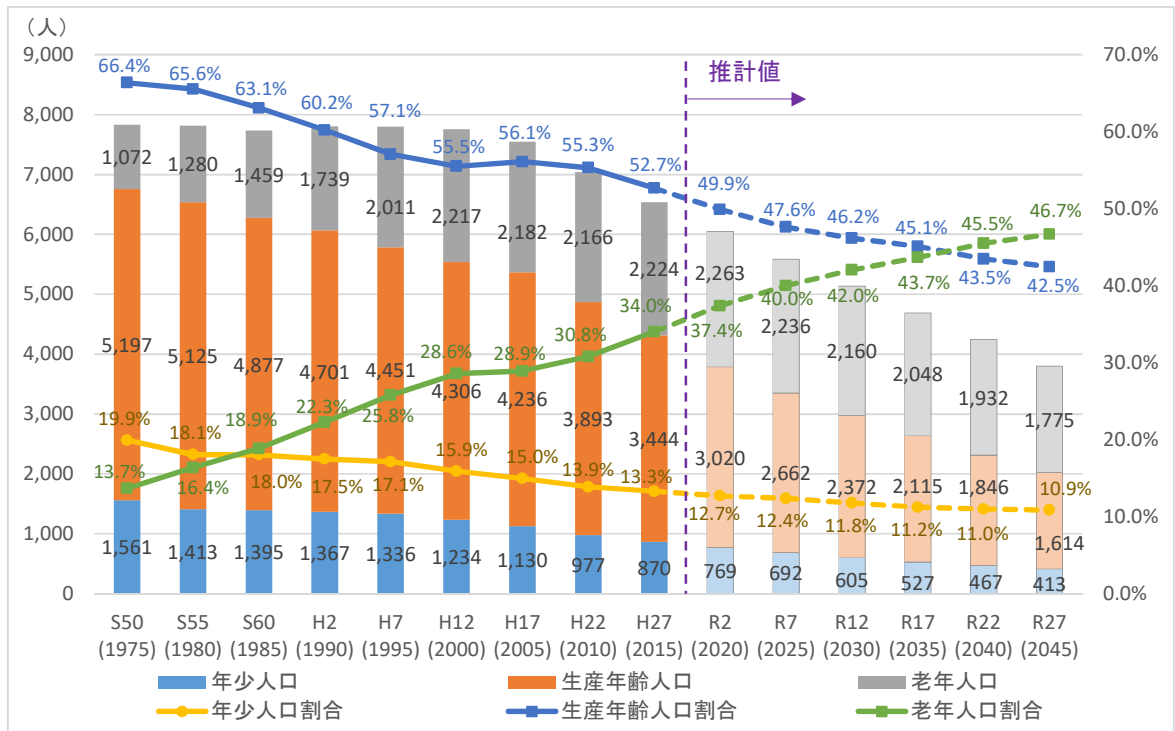


図 年齢3階層別人口の推移と見通し

出典：(実績値) 国勢調査、(推計値) 社会保障・人口問題研究所 (平成30年3月推計)

人口の減少段階の分析

人口減少段階は一般的に、「第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）」、「第2段階：老年人口の維持・微減（減少率0%以上10%未満）」、「第3段階：老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するといわれています。本村は現在第1段階であり令和2年から第2段階、令和22年から第3段階に進行するものと想定されます。

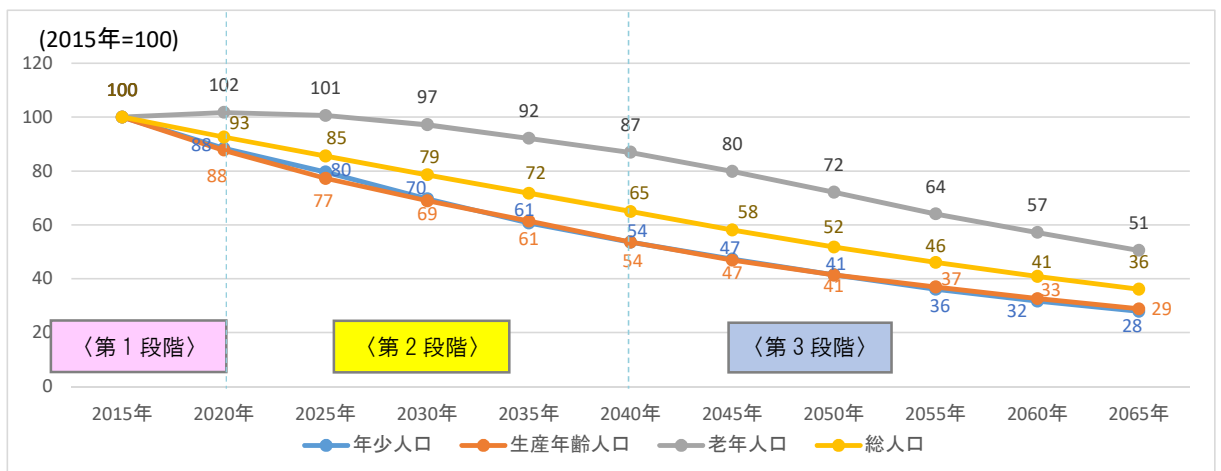
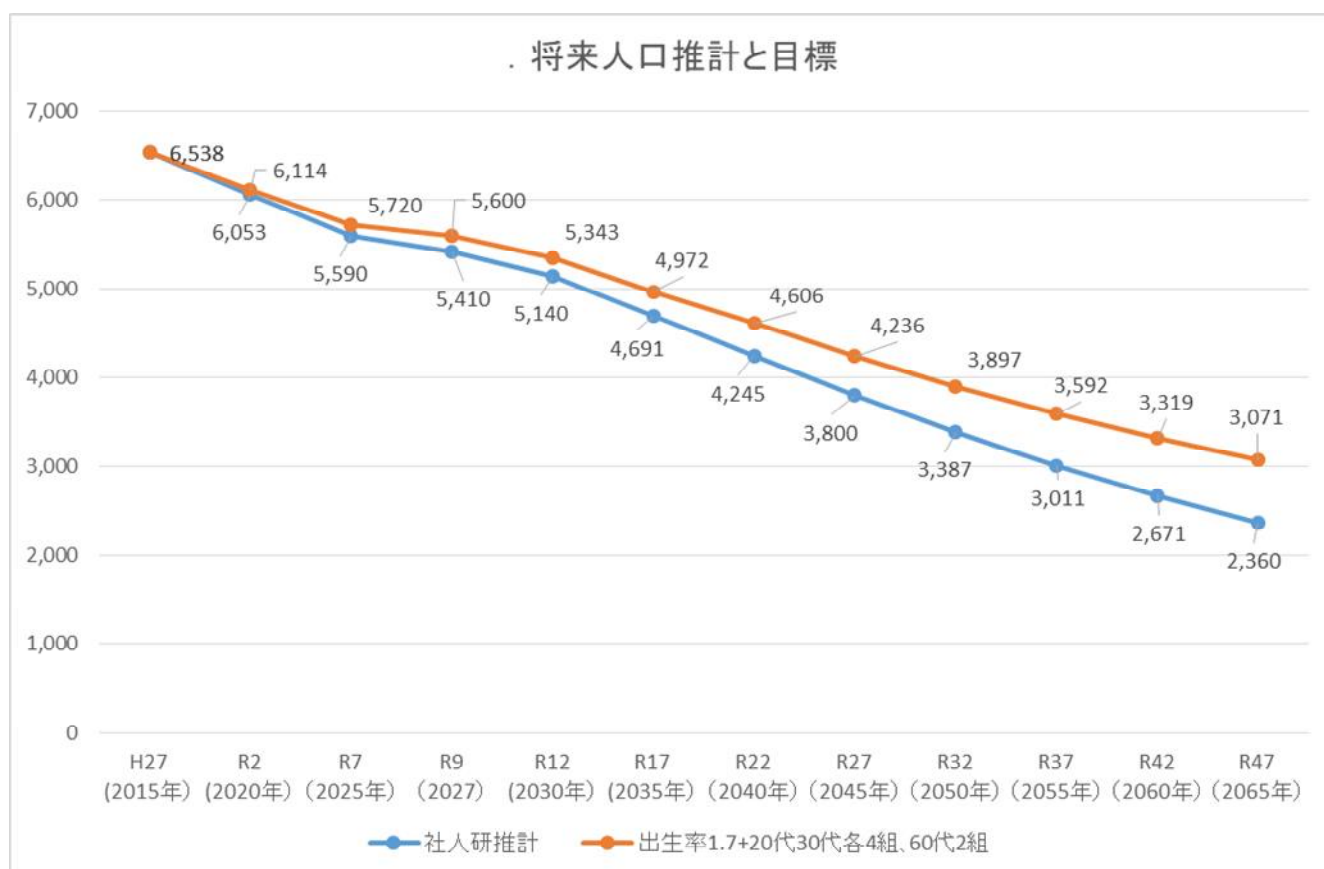


図 人口の減少段階

第3節 将来人口

村では平成28年度に「村の人口の将来展望」と実現するための施策」を定めた「星ふるさと 阿智村 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略（第1期計画）を策定しており、この中で出生率増と移住者増のための施策を講じ、2045年で5,356人（平成27年人口の約80%）を維持する目標を設定していましたが、令和2年3月に改訂された第2期計画では、国立社会保障・人口問題研究所の平成27年国勢調査人口に基づいた最新の将来人口推計の発表を受けて、新たな将来人口目標を2045年で4,300人（平成27年人口の65%）に下降修正しています。

これをふまえ、第6次総合計画（後期計画）では、令和9年にめざす人口を当初の6,200人維持から人口5,600人の維持に修正し各施策をすすめます。

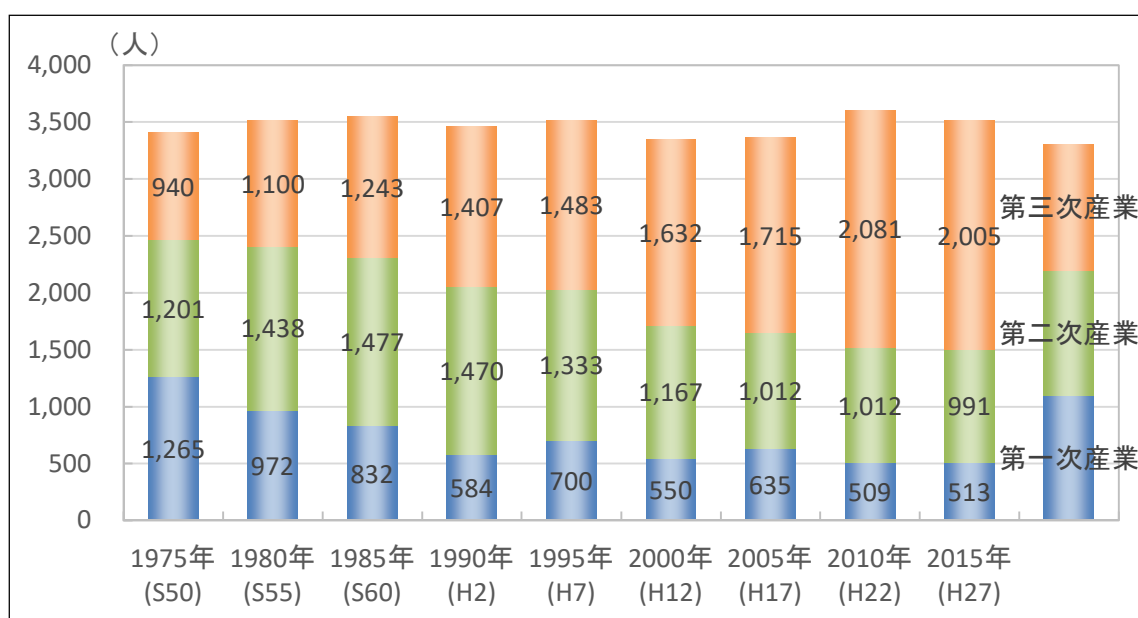


第4節 産 業

1 就業人口

産業別の就業人口でみると、第一次産業では昭和50年と比べ平成27年の産業別構成比では37.1%から14.6%と減少しています。さらに、第二次産業も構成比で35.3%から28.2%へ減少しています。

一方、第三次産業は構成比で27.6%から57.1%へと大きく増加しています。農業を中心とした第一次産業、製造業等の第二次産業が縮小傾向で、第三次産業の伸長が明確な対比をみせています。



参考：各年国勢調査

2 第1次産業（農業、林業、漁業など）

農業就業人口を中心に第1次産業人口は、年々減少傾向にありますが、近年は、新規営農者の確保や後継者の育成につとめています。

しかし、農業を取り巻く情勢は、グローバル化、就業者の高齢化、後継者不足等厳しい情勢にあり、引き続き農業の振興に努めるほか、観光業など他の産業と連携した活性化が求められています。

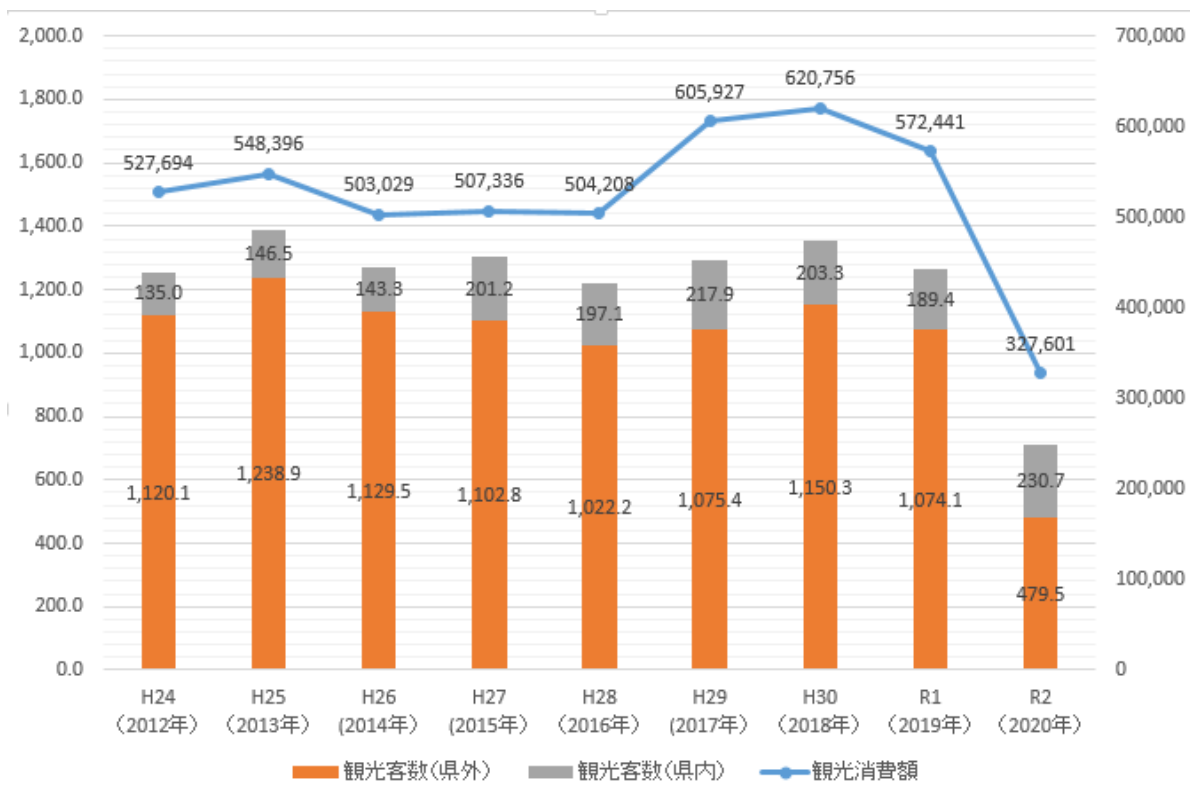
3 第2次産業（鉱業、建設業、製造業など）

近年は、グローバル化による地域経済の縮小の影響、国内産業構造の調整期の影響で減少傾向にあります。

信州大学や飯田下伊那地域と連携し、航空機産業の誘致や人材確保・育成など力を入れています。令和9年に開業を目指しているリニア中央新幹線により、東京・名古屋方面との時間が大きく短縮することが見込まれ、地域産業、経済面で波及効果が期待されています。今後も、若者定住策の促進、調和のとれた産業構造維持のためにも、雇用の場の確保が急務となっています。

4 第3次産業（卸売・小売業、飲食業、サービス業など）

昼神温泉郷をはじめ、村内2つのスキー場や治部坂高原等といった観光地の振興については、観光指向の多様化、観光地間競争が激化していました。令和元年12月に確認された新型コロナウイルス感染症のため、観光客数の減少など大きな影響を受けており、特にコロナ禍以前においては毎年増加していた外国人旅行者は、ほぼ皆無となりました。そのような中、昼神温泉は、村と関係機関が連携し、旅行形態や、旅行目的の変化に対応し、日本一の星空や花桃など、地域発の観光資源を活用しブランディングを行って行く中で、阿智村は地域間競争で選ばれる観光地になってきました。これを維持していくため、各種事業を実施し、今後も継続して昼神温泉が輝き続けられるよう、コロナ前の観光客数に戻れるよう進めています。



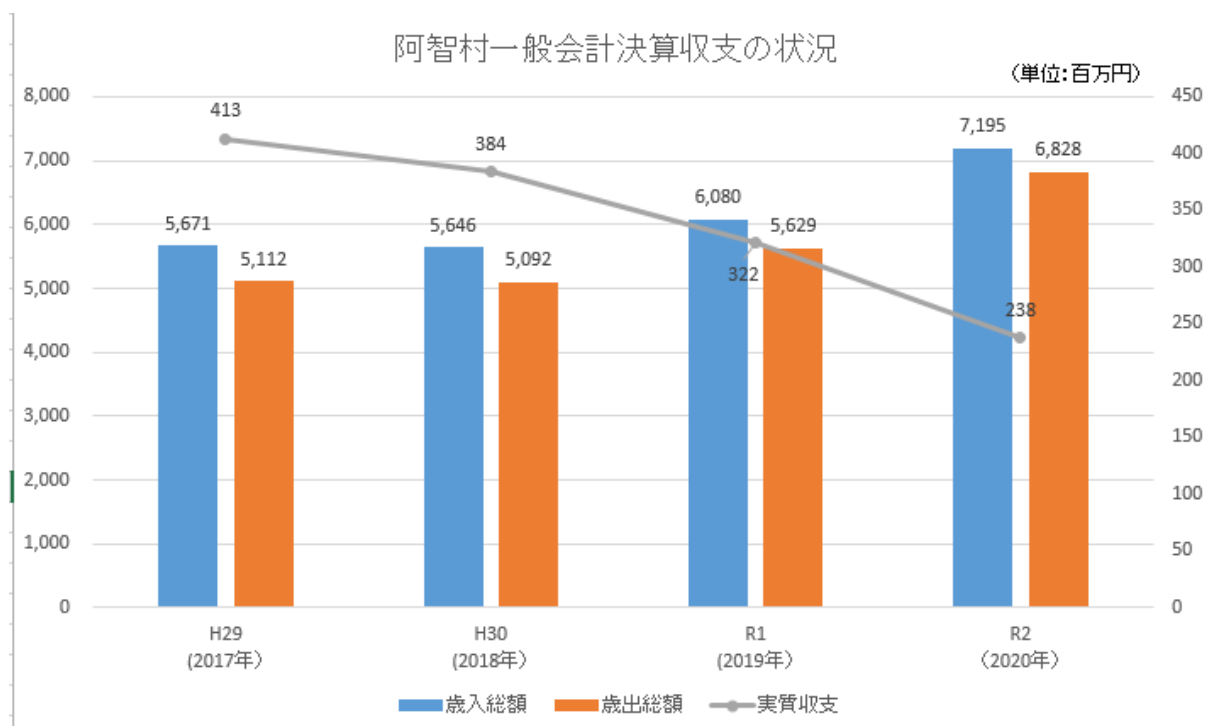
参考：長野県観光地利用者統計

第5節 財 政

本村は、平成17年度に浪合、平成20年度に清内路と合併しましたが、依然としてその規模が小さく、地方交付税、国庫補助負担金等の依存財源の割合が非常に高くなっています。

国の財政状況も厳しくなる中、本村における財政環境も引き続き厳しい状況となっています。

経済発展的な施設整備や生活関連施設など社会資本の整備及び住民が望む新たなサービスを提供していくために、安定した財政基盤の確立、効率的な行政運営、受益者負担原則の確立、財源の計画的・重点的・効果的配分などに十分配慮し、中長期を展望した予算管理や基金・村債等の適正な管理による健全な財政運営に努めていく必要があります。



参考：各年度の地方財政状況調査より

第6節 SDGs 達成に向けた取組について

SDGsは、「Sustainable Development Goals」の略で、平成27年9月の国連サミットで採択された「令和12年までの長期的な開発の指針として採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなす「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標です。

平成27年までを計画期間としていた発展途上国向けの開発目標「MDGs（ミレニアム開発目標）」の後継として採択されたSDGsは、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な17の目標及び細分化された169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。

国においては、内閣総理大臣を本部長とする「SDGs推進本部」が設置され、平成28年12月の会合において「SDGs実施指針」を策定し、経済、社会、環境の分野における8つの優先課題と具体的施策を盛り込むとともに、地方公共団体の役割の重要性が示されています。また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、地方公共団体におけるSDGsの取組推進が位置付けられるなど、積極的な取組が期待されています。

本村の総合計画（後期計画）で取り組む方向性は、スケールこそ異なるものの、国際社会全体の開発目標であるSDGsの理念、17の目標とその目指すべき方向性は同じであり、本戦略の推進を図ることがSDGsの目標達成にも資するものと考えています。そのため、本村においても住民をはじめ多様な主体と連携・協働しながら、計画的なまちづくりを進めることで、SDGsの目標達成につなげていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【資料】SDGsの17のゴール（目標）

番号	目標	番号	目標
 1 貧困をなくそう	【貧困】 貧困をなくそう あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる。	 10 人や国の不平等をなくそう	【不平等】 人や国の不平等をなくそう 国内及び各国家間の不平等を是正する。
 2 飢餓をゼロに	【飢餓】 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	 11 住み続けられるまちづくりを	【持続可能な都市】 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
 3 すべての人に健康と福祉を	【保健】 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	 12 つくる責任 つかう責任	【持続可能な消費と生産】 つくる責任つかう責任 持続可能な消費生産形態を確保する。
 4 質の高い教育をみんなに	【教育】 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	 13 気候変動に具体的な対策を	【気候変動】 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
 5 ジェンダー平等を実現しよう	【ジェンダー】 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	 14 海の豊かさを守ろう	【海洋資源】 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
 6 安全な水とトイレを世界中に	【水・衛生】 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	 15 陸の豊かさも守ろう	【陸上資源】 陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	【エネルギー】 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。	 16 平和と公正をすべての人に	【平和】 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
 8 働きがいも経済成長も	【経済成長と雇用】 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。	 17 パートナースHIPで目標を達成しよう	【実施手段】 パートナースHIPで目標を実現しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	【インフラ、産業化、イノベーション】 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。		

第3章 基本構想

将来像

暮らす、生きる。阿智家族

(住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり)

阿智家族として語れる夢があること、支え合うこと、分かち合う場所があること、明日を楽しみに眠れること。

阿智村に暮らすということは、住民一人ひとりの人生の質を高められる持続可能な村づくりにより村ごと大きな家族になること。

日本一の星降る郷であるだけでなく、全てのひとの心のふるさととしても人も星も輝く村をめざします。

横断的施策大綱

■ 定住人口の確保・維持

まち・ひと・しごと人口ビジョンの計画に沿い、10年に人口6,200人の維持をめざします。

医療、福祉の充実など安心した生活と、地域力、観光を基に交流人口を増やし、よりよい人口構成をめざします。

■ 人づくり・健康づくり・地域力

ふるさとを愛し、健やかで心豊かに幸せな人生を送れる人づくりをめざし、教育、健康、福祉を充実させます。

また、阿智村は8つの地域から成り立っており、各地域の活力を高める事により、持続可能な村づくりをめざします。

■ 阿智ブランドの確立

日本一と呼ばれる星空、はなもも、そして昼神温泉を有する当村は、歴史、地域資源の宝庫です。これらを活かして多分野にわたり、全国に向けて力強い阿智ブランドを確立されます。

■ まちづくり計画

将来のまちづくりの個別計画として、10年度、20年度の村の姿を模索していく必要があります。

また、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道延伸の整備が南信州エリアで進んでいます。これらの工事対応や開通後を見据えた地域振興戦略、幹線道路計画等、まちづくりの観点から重点的に取り組みます。

基本目標

将来像『暮らす、生きる。阿智家族』の実現に向けて、次の5つの基本目標を掲げます。

1 くらし・いきがい・協働

住民一人ひとりが主体となり、協働の村づくりをめざす。

家族が互いに支え合うように、村に住んでいる一人ひとりが、阿智村の住人であることに誇りと生きがいをもって暮らせるよう協働の村づくりに取り組みます。

- 1-1 移住定住促進
- 1-2 地域力・集落維持
- 1-3 住民主体の協働の村
- 1-4 全村博物館構想
- 1-5 情報の地域発信
- 1-6 健全で持続可能な行財政運営

2 教育・文化・地域愛

ふるさとを愛し、夢を描いて、心豊かな人生を送れる村をめざす。

阿智村の子どもたちが、地域の愛情の中で育ち、いつまでもふるさとを愛する気持ちを持ちながら、心豊かな人生を過ごせる環境をつくります。

教育では、多様な時代や社会に対応できる学力や体力を身につけ、志や夢を描いて自己実現ができる環境整備に努めます。

スポーツや地域文化の振興、交流を通じて、子どもからお年寄りまで健康で文化的な生活が送れるとともに、村の伝統・文化の保持、継承を支援します。

- 2-1 地域で育む子育て支援
- 2-2-1 明日を生きる力を育む学校教育（学校教育）
- 2-2-2 明日を生きる力を育む学校教育（阿智高校の存続と発展）
- 2-3 子どもが健やかに育つ保育園
- 2-4 社会教育の充実
- 2-5 スポーツで育む健康、交流
- 2-6 文化活動と地域文化の振興

3 医療・福祉・健康

だれもが健康でしあわせに暮らせる村をめざす。

全ての人が、心身ともに健やかで安心して暮らしていけるように、関係機関と連携しながら、個人や年代に応じた生活習慣の改善や健康増進による病気の予防など、健康づくりを促進します。

3-1 医療体制の充実

3-2-1 地域包括ケア・互いに認め合い、支え合える地域づくり（地域福祉）

3-2-2 地域包括ケア・互いに認め合い、支え合える地域づくり（高齢者福祉）

3-3 障がい者の自立支援

3-4 あち健康プラン2 1の推進

4 産業振興・雇用創出

観光を基軸とした産業振興を通じて、雇用創出・阿智ブランドの確立をめざす。

「スタービレッジ阿智」など観光分野をさらに推進するとともに、拡大する交流人口を村内各所・各分野へ波及させるよう連携を図ります。また農業や林業では、担い手の確保支援や先端技術の導入支援に努めるとともに、阿智ブランドのさらなる確立とこれを活かした産業振興をめざします。

4-1 観光を基軸とした産業振興

4-2-1 阿智の特色を生かした農業振興（農業の振興）

4-2-2 阿智の特色を生かした農業振興（有機活用農業の推進）

4-3 里山の風景を残す林業振興

4-4 地域に根差した商工振興

4-5 まちづくり計画

5 環境・防災・安心

安心安全に暮らせる環境づくりと、人と自然を大切にしたい絶景の村をめざす。

阿智村は、日本で最も星が見える空と緑豊かな自然が美しい村です。この美しい自然環境を守り育てるとともに、省エネルギー化の推進、自然エネルギーの利活用を通じて環境負荷を軽減するとともに、美しい村づくりを進めます。

防災・減災対策に加え、家庭・地域・行政が互いに協力しながら、災害に強いむらづくりを進めます。危機管理、消防・救急体制の充実や、事故や犯罪などから住民の生命や財産を守り、安心して暮らすことができるむらづくりを進めます。

また、身近な生活道路の整備や適切な維持・管理、公共交通の利便性向上などにより、住民の生活を支える交通ネットワークの充実を図ります。

さらに、リニア中央新幹線が10年後の開業を目指して本格的に工事が行われます。村内でも工事に関連し、関係機関と協議しながら工事の安全性や環境保全に対応するとともにリニアを活かした村の活性化に取り組みます。

5-1 美しい景観の保全と創出

5-2-1 水資源の確保・保全（上水道）

5-2-2 水資源の確保・保全（下水道）

5-3 自然エネルギーの創出

5-4-1 安心して暮らせるしくみ（生活基盤の整備）

5-4-2 安心して暮らせるしくみ（防災・交通安全）

5-5 充実した公共交通

5-6 リニア中央新幹線対応